

今月の安全運転管理

新年度 正しいルールの確認と 思いやり運転の実践

①「安全運転教育」は人と企業を守ります

- 安全第一を社内外に浸透させよう
- 新入社員教育には実技研修を導入しよう

②飲酒運転根絶の職場環境を構築

- 「酒気残り運転」の危険性を理解させよう
- 運転前のアルコールチェックを徹底しよう



■春の全国交通安全運動【2020年4月6日(月)～15日(水) ※交通事故死ゼロを目指す日4月10日(金)】

事業所の安全イメージを作り上げよう

新年度を迎え、新たなメンバーを迎えたことをきっかけに、改めて全従業員に交通安全力を入れていく企業であることを示しましょう。

まずは、次のようなことを徹底させてください。

・運転中の携帯電話(スマホ)の使用禁止

・歩行者保護運転の実践

・全席シートベルト着用

こういったルールを従業員に徹底させることで、「あの企業の従業員は交通マナーが良い」といった社外からの印象も上がる結果になります。

ある事業所では、会社の周辺道路の清掃とゴミ拾いを定期的に実施しています。この清掃活動は、道路の安全度を高めることもできることから、自分たちが使う道路は責任を持って管理するという姿勢が生まれ、交通

マナーが各段にあがったそうです。こうした地域奉仕は、住民との信頼関係の構築と、企業イメージも高めることにも繋がります。

新入社員教育には実車訓練の導入を

事業所の交通事故で高い比率を占めているのは、入社一～二年の若い運転者です。そこで新入社員に対して、

・業務運転の責任

・交通違反の罰則

・使用する業務用車の特徴

・安全運転の基本

・運行ルートなどの道路状況や危険箇所

などを指導しましょう。

新入社員には実車を用いた教育が効果的です。添乗指導を行い、問題点があれば、随時指摘しましょう。自動車教習所の安全運転研修などを活用するのもよいでしょう。

飲酒運転&酒気残り運転根絶を徹底させよう

歓迎会やお花見など、四月は飲酒の機会が増える時期です。県内の過去五年間の飲酒人身事故件数を見ると、十二月と並び四月も多い月でした。事業所一丸となって飲酒運転根絶を誓いましょう。

昨今では、「酒気残り運転」が話題となることが多くあります。飲酒運転による事故の際、運転者が「酔いが醒めたと思った」「酒が抜けたと思った」と弁明しているケースをよく耳にします。

こうした事故は、飲酒翌日の朝からお昼頃にかけて発生しており、通勤や通学の時間帯と重なるため、多くの人を巻き込む重大事故に繋がる可能性が少なくありません。

運転前のアルコールチェックの徹底と共に、運転をする前日にはお酒を控えるよう指導をしてください。